

週日の説教

金 大烈 神父 2010年6月23日(水)

《靈的識別と靈的実りとは》

主の平和

今日の福音(マタイ 7・15-20)を読んで色々な思いが浮かんで来ました。『偽預言者を警戒しなさい』。この箇所を読んで「私はどうなのか」と自己反省する心もありました。偽物と本物を見分ける難しさもあります。いつか私が申し上げた事があると思いますが、この福音では『その実で彼らを見分ける』と簡単におっしゃっています。実際に偽預言者に全部やられてから「実を見て、ああ、間違えた」と言ってもそれは手遅れです。結局私達が生きているうちに、具体的な時間の中で、場所の中で、どうにか偽物を見分けられるその知恵が必要です。しかし、それが中々難しいのです。何故難しいのでしょうか。それは、偽物とは本物に一番似ているからこそ、偽物と言われています。一番似ているから判断が難しいのです。誰が見ても「これは本物ではない」と言えるものは偽物とは言えません。結果を見て、実を見て「ああ、これは立派な物だった、悪い物だった」と言う判断は、いつもこの人生のなかで人々が見せて来たやり方ではないかと思います。

さあ、それでは今、ここで、出会う全ての関わりに対してだけではなく、自分が自分自身の振る舞いの中で、これが正しいか正しくないか、それを識別することを何と言うのでしょうか。カトリック信者としてこれを靈的識別と言います。靈的分別力とも言えるでしょう。では靈的識別とはどういうことでしょうか。皆様その靈的識別力が有るほうでしょうか無いほうでしょうか。無いほうだと思の方は色々な事によくぶつかるでしょう。たいしたことでもない出来事に腹を立て、怒ったりあせったり、そしてどうにか祈っても忍耐力を持ってちょっと待ってみようとする心をすぐ失ってしまうかも知れません。私は20歳そこそこから今まで修道生活をし、正しい生き方を求めようとする道を行ってきた訳ですが自信がありません。本当に正しく識別して「この人に一番相応しい反応を見せたのか。」そうではなくて、自分の心の中で何か自分自身も気がつかないうちに「貪欲な狼のやり方を、考え方をしているのではないか」と反省してみますと、やっぱり「私は上手く行って来た。」とは自信を持って話せません。ある意味でこの様な心が、私達全てに必要なかも知れません。なぜなら「私は上手くやって来たよ。」と言う心があったら、そこには神様の愛が入り難くなります。

靈的識別をカトリック的に表現するとすればそれは二つの要素が必要です。“一つはイエス様へ対しての愛です。”愛が本当にイエス様への愛だったらそれは正しい愛でしょう。それがどこか外れた愛も結構あります。いつも「イエス様、イエス様、愛、愛、」と言いながらも全然違う方向を歩いている人々も結構見えます。ですから私の愛が、イエス様に対する愛が、本物か本物ではないのか、正しいか、正しくないか、またここでも識別が必要です。そして、その愛のためには何が必要でしょうか。“二つ目の要素は求める心です。”この求める心がなかったら、私達はいつも愛に囲まれていても、その愛は

絶対に分かりません。私達がよく使う表現がありますよね。「単純な盲目的な愛」これがある意味で美化されて、お母さんの子供に対する愛は「盲目的な愛」と言われています。そしてこれを拡張高く評価する場合があります。しかし、私達が求める愛は盲目的になってはいけません。必ず“霊的な識別を持った愛”でなければいけません。

さあ、私達の振る舞いには三つの段階が必要です。ひとつは動機、いわゆるモチベーション。次はプロセスと言われる過程。そして最後に結果があります。

動機が美しくて純粹であっても、結果が汚かったらそれは意味がありません。

動機、結果がよかったと言うかもしれませんが、過程が崩れてしまったらそれも美しくありません。動機、過程が汚いのに結果がよくなったと言ってもそれは意味がない事です。結局、霊的な識別を持って私達が求めなければならない霊的実りとは、動機、過程、結果、これらを一貫性を持って見る知恵です。

皆様、例えば九人を救う為に一人を殺す。「九人が救われる方が、皆殺されるよりもいいのではないのでしょうか。」これがイエス様を殺したイスラエル人の論理でしょう。この様な考え方や、やり方は今でもあります。しかし皆様、カトリック信者はそういう意味では、もっと難しい生き方を求めるべきです。

動機、過程、結果、全てを客観的に見ながら考えなければなりません。これを“予言者職”と言います。

占いのように、未来の事を「ああ、これはこの様になるよ」と言いながら予言するのではなくて、「本当に何故私はこの様なことをしようとしているのか」、それを先ず振り返ってみる。そして、今私が行っているこのプロセスが正しくて、人々を喜ばせるのか、神様の御心に適っているのか、振り返ってみななければなりません。そしてその結果が美しくなっているのか、色々な人々に正しく共感されている結果なのか、これを考えなければなりません。この三つの段階を考えて見ますと、そんなに自信のある人はいないと思います。しかし、どんな振る舞いもこの様な目で見なければなりません。ですから色々な信仰団体でも「私がこの様な心でこの人にやって上げたのですが、その人の反応は全く反対で今はもう大喧嘩になってしまいました。」と相談に来る人々がいます。必ず自分の中から先ず問題を探してください。相手を攻めようとする事は結局 自分を正当化する事です。これはイエス様の教えとは全然違うやり方です。

何か辛い事がある時、問題がある時、その時には先ず自分のことを振り返ってみるべきです。その知恵があれば相手も直ります。「あの人変わってほしい」と、いくら望んでも相手は変わってくれません。それは、相手を見る自分の目を変えなければなりません。面白いことに、自分が自分自身を変えたら相手は自然に変わるのです。これがキリストの愛の力だと思います。

皆様、香りを出す樹とか、おいしい果物が実る樹の下には必ず何かがあります。その下には人々がよく踏んだ足跡があります。道があります。私達は香りを出し、どうにか実を結べる樹のような生

き方をしなければならぬのです。いつも癖になって私達は、「寂しい、寂しい」と言うかもしれないのですが、その寂しさには必ず原因があることを知るべきだと思います。わきまえて見分ける分別、識別力を全く同じ筋道で考えればよいと思います。その知恵、その識別力、やっぱり祈りの中で可能です。祈りがあれば私達が正しく歩むのではなく、イエス様がどうにか正しく導いて下さいます。

今日の福音は相手にする話ではありません。わきまえて相手をちゃんと識別しなければならぬという御言葉ではなく、自分のことをおっしゃっていると考えて下さい。「自分のことをちゃんと見なければならぬ」とおっしゃっているイエス様の御心を、今日の福音を通して勉強しましょう。

ありがとうございました。